

令和7年度 第3回佐久間分校学校運営協議会 議事録

日 時 令和7年11月10日（月） 午後1時30分～3時30分

場 所 浜松湖北高等学校佐久間分校応接室

出席者 委員（敬称略） 月花明生、高橋恵子、坪井俊介、大見拳也

学校 新井淳一校長、橋本徳一副校長、長谷川竜一教頭

【開会】

1 授業見学

2 議事 会議成立 委員4人全員出席

ア 佐久間分校の近況報告

〔事務局説明〕 佐久間分校の近況について

【議事及び協議事項】

- ・飯田線沿線中学校などにもっと声をかけたら良いのではないか。
- ・現在は前回の「啓成寮」再開時の様子。一過性にならず継続して分校に興味をもってもらうにはどうしたらよいか。

（事務局） テレビの取材を受ける予定。

- ・次年度入学者が15人を割ったらどうなるのか。見通しはあるか？

（校長）：募集停止となる。

イ. 令和7年度 地域総合類型の取組

〔事務局説明〕 3年生「地域総合」および2年生「地域学」について

- ・ブラックバス駆除は無事に開催できた。学校だけではやりにくい場面もあるだろう。民間企業として積極的に関わって支援したい。
- ・地元企業も、どのように地域と連携していくかを模索している。地元企業において次年度から10年間、工事に関わる人の流入がある。佐久間で働くために移住する人は、高校生世代も連れて移入してほしい。

（事務局） 三遠南信道路がつながると市街地から通勤できる。雇用があるとはいえ、それが地域の人口増につながるかどうかは不明。

ウ. 分校としての今後の取組

〔事務局説明〕第2回魅力化推進協議会での県教委、浜松市の発表内容について

- ・県立佐久間分校が募集停止後、浜松市立高校として継続する可能性の余地は？
- ・実現のためのハードルは、やはり高いか？「15人ルール」の検討の余地は？
(校長) 現時点では検討されていない。
- ・通信制の進学希望が多くなっている現在、小規模全日制を残して選んでもらうというニーズはある。
- ・アウトドア派に分校の環境を知ってもらうという手はある。分校のアピールポイントを地域内外に関わらず伝えていくことが大事なのではないか。
- ・中学生の中には、「学校にはいけないけれど勉強をしたい」生徒が一定数いる。勉強したい生徒なら、受け入れるという選択、特色化はできないか。

(事務局) 生徒本人の意思もある。本人が「ここで学べるか？」の判断が必要。分校での学びや、学校生活をぜひ見て決めてほしいと考えている。

- ・佐久間分校の良さは、地域の生徒の中に地域外の生徒が入ってきて生まれるところ。地域外の子たちが多くなると、今のような望ましい環境で学べるとは限らない。
- ・分校は、現在ある地域と関わる学習活動の継続に努めてもらいたい。
- ・地域にあって、地域の中学生に選んでもらえる学校、地域外からみて特徴ある学校であってほしい。
- ・浜松市の支援事業はいつからと考えればよいか？次年度も継続して支援してくれるのか？

(事務局) 浜松市は市を上げて支援事業に力を入れると言っている。今年は補正予算にすでに計上され、次年度予算にも組み込まれる予定である。

- ・浜北地区からも、バス等で気軽に通える環境整備があればよい。通学バスを活用した通学の方法は検討の余地がある。
- ・分校の存続は切実な問題。佐久間中3年には、分校ではなく市内の学校を希望する生徒もいる。その流れは止められない。
- ・女子生徒も受け入れる「住居」の整備と広報を、早急に浜松市に期待したい。

(事務局) 浜松市が準備する寮については継続して連絡を取り合う。統廃合の動きは、急速に進んでいる。

【閉会】